

平成 29 年度第 2 回逗子市安全安心に関する懇話会概要

開催日時：平成 29 年 7 月 20 日（木） 14 時 00 分～16 時 00 分

開催場所：逗子市役所 5 階第 2 会議室

出席者：鈴木新メンバー 木村メンバー 平野メンバー 小泉メンバー 伊藤メンバー
前田メンバー 吉田メンバー 田宮メンバー 島貫メンバー 龍村メンバー
西方メンバー 三根メンバー 東海メンバー

事務局 鈴木係長 坂巻専任主査 樋渡防犯アドバイザー
山田副主幹（消防総務課）

欠席者：金松メンバー 片桐メンバー 竹村メンバー（武田氏代理出席） 和田メンバー
鈴木為メンバー

記録者：鈴木係長

1 開会

事務局より、第 2 回逗子市安全安心に関する懇話会の開催を宣言した。
開催にあたり、レコーダーによる録音について承諾を得た。

2 会議概要

(1) 逗子市安全安心アクションプランの策定について

事務局より配布資料に基づき、説明を行った。
(質疑応答・意見)

【田宮メンバー】

今回の計画は前期計画として策定し、実行していくのか。

【事務局】

お見込みのとおり、前期計画を策定し実行していく。

平成 35 年度からの中期計画は、33～34 年度に策定し 35 年度から「実行していく。

【鈴木新メンバー】

策定の章は、全体とのつながりを示す章であって、何をするかについては、この後と
いうことで良いか。

【事務局】お見込みのとおり。

(2) 逗子市安全安心アクションプラン防災編について事務局より配布資料に基づき、説明 を行った。

(質疑応答・意見)

【座 長】

メンバーから会議進行について要望があった。防災編をすべて説明してからでは質問項目が多いので、「基本目標1 市民自らの防災力の向上」で区切り、質問を受けるものとする。

また、全般に係ることであるが、事前にメンバーからアクションプランに対する意見をまとめた資料をいただいているので、後ほどその説明をメンバーから願います。

【東海メンバー】

地域防災計画の地震津波対策編を見ると相当な量がある。その中から、今回は具体的な取り組みを取り出しているが、地域防災計画第一章第一節に示す「具体的な行動計画を定め、その推進に努めるものとする。」という考えを、アクションプランと考えてよいのか。

そうだとすると、逗子にとって緊急性の高いものから取り組んでいただきたい。

今回提示されたアクションプランは具体的な目標を数値化する良い計画だが、全体的な印象では、市民活動や自主防災の充実などに主眼が置かれていることに違和感がある。逗子市の中でも新宿地区にとって現実的に深刻な問題は津波である。津波に対する避難路や避難場所の整備が急務と考えているが、実際の避難路は土砂災害警戒区域と重なっており危険性もあり、その整備等に関してなかなか進まない現状がある。こうした整備等の計画も緊急性や優先度が高いのではないか。

もちろん、本計画においては、市民による防災活動・意識の充実に対する施策も、具体的な避難路等の整備もどちらも重要であり、アクションプランとして取り上げなければならないことと考えてはいるが、予算や人手の問題を考えるとまず緊急性の高いこのような対策から取り組んでほしい。

【事務局】

具体的に緊急性や優先度の高い課題に取り組んでくことについては、担当所管等との調整が必要となりますので、少し時間をいただきたい。防災計画との整合性については、アクションプランは地域防災計画の行動計画として理解していただきたい

【西方メンバー】

優先順位の高いものから取り組むことは理解できる。

先日、町内会から回報があつて、3.11のときに要介護者名簿をいただいていたが、要介護者の訪問ができたのは日頃から連絡を取っていた人だけで、その他の方へは訪問できなかった。そのような経緯があり、7月の役員会では市から提供を受けた避難行動要支援者名簿をもとに個別支援プランに着手するか結論が出なかった。

避難行動要支援者対策は、自主防災組織といっても自治会の組織なので荷が重すぎると考えている。

しかしながら一方、そもそも大規模災害時には公助を期待することはできず、自助、共助、近所、自主防災組織等しか対策がないことも明白なことである。

役員会では、要支援者への対応、今後の活動方針、個人情報満載の個別支援プランを作成し預かることや、支援者の役割を果たすことへの不安等、1時間以上話し合ったが、すぐに役員会において結論がでるような軽いテーマではないため、今後も話し合いを継続していくということになった。

たしかに、優先度からすると避難路の整備等公的なハード対策について様々な事を実施してほしいが、避難行動要支援者への対応など、共助・自助に関することは、こう決めましたといってもなかなか活動できない。このため、アクションプランにおいて、共助・自助を中心とした市民による地域防災に力を入れて計画を策定することは意味のあることだと思う。

【座 長】

メンバーの意見については事務局で検討するというので、その他に事務局の説明や意見や質問のある方はいますか。

【鈴木新メンバー】

P6.7で逗子市の被害想定となっているが、浸水想定については津波を考慮しているのか。

【事務局】

津波ではなく、降雨による浸水想定である。

【鈴木新メンバー】

津波の遡上は想定していないのか。そういうことなら、浸水は50年に1回だとか地震は30年に1回だとか、想定が矛盾しているのではないか。浸水という考え方ははっきりしたほうが良いのでは。

【事務局】

津波ハザードマップでは、河川の遡上を含めた浸水想定であり、土砂災害等ハザードマップでは降雨による浸水想定を示したものである。

【鈴木新メンバー】

津波避難訓練と地震に関連し質問する。津波避難ビルの指定を行っているが、実際の災害の際には津波避難ビルに入れられないのではないか。なぎさ通りの津波避難ビルを確認したが、オートロックになっており入れない状況であった。津波警報が出た時にはどのように開錠するのか。非常時に開錠ができなければ何の役にも立たない。

【事務局】

津波避難ビルは市と協定を結び指定を行っており、災害時には開錠できる体制を整えていただいたうえで指定している

また、津波避難訓練への参加をお願いし、開錠できる態勢を確認していただいている。

【鈴木新メンバー】

津波避難ビルを回ったところ、管理人室には今日の業務は終了したとなっており、フルタイムの管理ではないので鍵を開ける人がいない。このような津波避難ビル体制を作っても意味がなく心配になる。

それと街を歩いて思うことは、表示がお粗末である。たとえばどこに避難ビルがあるのか、近くに行かなければ分からない。防災意識のある人は知っているが、そうでない人にはわかりにくい。

【木村メンバー】

私は10年間、防災とか三浦半島の活断層などの調査を行い学会や他の地域の防災について勉強してきた。被害想定については、もう少し具体的に市民に分かるようなものに

していただきたい。死者 50 人としても、どういうことで死者 50 人なのか。活断層にしても、たとえば三浦半島断層群の表示を掲載したりとか。逗子の市民に聞くと三浦半島に活断層があることを知らない方も多い。横須賀市や三浦市はとても関心が強く、昔、国と県の支援を受け調査して活断層がわかり、市民に公開している。未確定な断層もたくさん出てきて、活断層かどうかわからないが、南部の活断層が連動することを想定して調査を行っている。

浸水想定については、津波も洪水も同じ浸水となっているのでわかりづらい。また降雨の浸水想定も平成 21 年のもので古く、見直したほうが良いのではないかな。

大雨の浸水は昭和 43 年の洪水以降、大きなものはないが、崖崩れは頻繁に発生しているので、危険度が高いものへ記述方法を変えたほうが良いのではないかな。

【東海メンバー】

私も被害想定の変現をわかりやすくしたほうが良いと思う。津波の想定高や想定確率を是非入れてほしい。このプランがこういうことを想定しているという設定部分なので大切なところである。

【田宮メンバー】

このプランは国や県により、作成等を定められたものなのか。

【事務局】

このプランは法で定められたものではなく、逗子市で独自に作るものである。

【田宮メンバー】

断層地震の想定死者 50 名は、どのように亡くなったのか把握しているのか。

【事務局】

神奈川県調査結果を活用したもので、その中にもう少し詳しく記載されている。

(平成 27 年 3 月神奈川県地震被害想定調査において、建物被害、急傾斜地崩壊、屋外落下物、火災、津波等の災害について、過去の地震等の被害状況などから想定している。)

【田宮メンバー】

津波でなくなったのか、がけ崩れでなくなったのかが分かれば、ハザードマップが作りやすいのでは。ここで、がけが崩れやすいとか。

いまのハザードマップはわかりづらい。どこに逃げればいいのかわからない。避難所も土砂災害警戒区域内にある。

具体的に被害があった時にどうしたらいいのか、そのためにどのようなアクションプランを立てればいいのか、こういうことから始めたほうが良い。

ハザードマップにしても今の大きなマップをもらっても役に立たない。小坪の人たちは小坪のところだけでいい。小坪地域の避難場所だとか高台だとか、ひとつひとつ記載したマップを配付する。訓練に人が集まらないというが、このようなマップがあれば、意識も高まっていく。それと、訓練も子供の訓練、お年寄りの訓練など頻繁にやらないと住民意識は高まらない。アクションプランの話し合いをするよりも、もっと細かい具体的な話をしたほうが良い気がする。

【事務局】

引き続き、アクションプラン案について説明を行った。

【座 長】

時間の都合上、ご質問のみとさせていただき、ご意見については防災安全課へ意見書を提出することとなっているのでよろしくお願いします。

【吉田メンバー】

アクション9で、防災リーダーの育成として県との連携とあるがどのようなことか。
自主防災組織に対して期待値が大きいということは、リーダーを作らなければいけない。どのように考えているのか。

【事務局】

県も防災リーダーの育成に関し、様々な事業を行っている。例えば研修会など、各市に募集をかけているものもあるので、これらを活用してリーダーを育成していく。

【吉田メンバー】

体系的に防災を勉強させ、リーダーを計画的に作る事が重要で、地域の特性を知り地域計画に結び付けてほしい。

【座 長】

続いて、防犯編に移りますので、事務局お願いします。

(3) 逗子市安全安心アクションプラン防犯編について

事務局より配布資料に基づき、説明を行った。

(質疑応答・意見)

【三根メンバー】

以前、男の子が追いかけられたことがあったので、防犯パトロールをしている。
このような会に若い世代をどのように取り入れるか考えたほうがよい。
地域でスイカ割大会を行ったとき、大勢の若いお父さん方が手伝いに出てきてくれた。
何か上手に伝えれば、若い方たちが参加し、活性化していくのでは。

【西方メンバー】

安心安全メールの登録者を増やしたいとなっているが、高校生の息子に登録させたところ、振り込め詐欺のメールばかりで、ストップしているとのことだった。

振込詐欺も重要だが、毎年300件前後犯罪が市内で発生しているので、ほかの犯罪も発信できれば、地域の治安について把握できる。

【座 長】

議題3のその他に移り、メンバーから提出のあった資料3について、説明をお願いします。

【東海メンバー】

本懇話会は、ほとんどが一般市民だが、専門家の意見も活用していくべき。

2015年の都市計画学会誌に「逗子市における津波避難を対象としたケーススタディ」が発表されている。逗子市にスポットを当て専門的な観点から具体的な調査がされているので、ぜひ活かしてほしい。できれば、専門家に来ていただき、話を聞ければ参考になる。また、論文の資料をメンバーに配付していただきたい。

【事務局】

論文発表者の志村准教授には、逗子市でシンポジウムを行ったことがあり、そのとき見学をさせていただいたが、若いゼミの学生もおり、我々では考え付かないような発想があり素晴らしいと思った。論文のほうはよく見ていないが、これから見させていただいて、反映できることや、資料的に配布できるものがあれば考えていきたい。

また、学識経験がある方の懇話会の参加については規約に基づき協力の要請を求めることができるので、事務局で検討していく。

【座長】

その他に意見等ありますか。

【鈴木新メンバー】

先ほどの避難ビルについてですが、災害時に開錠できないのなら意味がない。

【事務局】

基本的には、災害時には開放できるように対応していただくことで協定を結んでおり、マンションの管理組合で複数の鍵を持つことや、地域の自治会と協働して、いざという時に開けられる取り組みをしているところもある。

【鈴木新メンバー】

例えば今日の昼に写真を撮って回っていたが、その時に警報が出たとすると、鍵を持っている人に津波や地震などの情報が届くようになっているのか。

【事務局】

津波の情報は防災行政無線やメールなどで知らせることになる。

それを聞いて駆けつけることになる。

【鈴木新メンバー】

なぎさ通りを歩いてみて、常時逃げ込めるのはオーケーストアだけで、あとのマンションは意味がないと思った。

3. 事務連絡

事務局より、次の事務連絡を行った。

- ・意見書等の提出 平成 29 年 9 月 8 日（金）まで
- ・次回懇話会 平成 29 年 10 月 26 日（木）14 時～ 市役所 5 階 第 1 会議室

4. 閉会

座長により、閉会が宣言された。